

第17期町田市立図書館協議会

第 7 回定例会議事録

日時：2018年5月28日（月） 午後2時～午後4時

場所：町田市立中央図書館 6 階中集会室

■出席者

（ 委 員 ） 山口洋、瀧桂子、大石眞二、
清水陽子、鈴木真佐世、石井清文、
池野系、小西ひとみ、若色直美（計 9 名）

（ 館 長 ） 近藤裕一

（ 事 務 局 ） 中嶋真（副館長）、陣内和之

■欠席者 坂西圭子

■傍聴者 0 名

第 17 期図書館協議会 第 7 回定例会次第

《議事録確認》

第 6 回定例会議事録

《館長報告》

1. 教育委員会

第 2 回 5 月 11 日（金）

（図書館該当なし）

2. その他

- （１）「鶴川地域図書館のこれから」ワークショップの開催について
（5 月 13 日（日）、5 月 25 日（金））

《協議事項》

1. 図書館評価について

《その他》

■議事録

○山口委員長 それでは、定刻になりましたので、第17期図書館協議会第7回定例会を開催いたします。

本日は、坂西先生が公務でお休みです。

それでは、お手元の次第をご覧ください。

まず、議事録の確認ですが、既にメールでご連絡等があったと思いますが、第6回、前回の定例会の議事録ですが、若干文言の修正などがございましたが、その後、特に問題がなければ、これで確定したいと思いますが、よろしいでしょうか。(全員異議なし)

では、議事録は確定いたしましたので、公開の手続をお願いいたします。

引き続きまして、館長報告に入ります。では、館長、お願いします。

○近藤館長 館長報告を行います。

最初は教育委員会の報告になりますけれども、第2回の定例会が5月11日の金曜日にございましたが、図書館、文学館ともに報告事項等はありませんでした。

2点目がその他ということになります。こちらは1点報告させていただきます。

前回少しお話ししたと思いますけれども、「鶴川地域図書館のこれから」ということでワークショップを開催いたしました。日程で言いますと、5月13日の日曜日、それから5月25日の金曜日ということで2回開催をしております。こちらは、2回目が先週の金曜日に終わったばかりで、報告書もまだまとまっておりませんので、どんなこととお話ししてという流れを少しご説明したいと思います。

A4、1枚でワークショップ「鶴川地域図書館のこれから」という紙が配られていると思いますけれども、まず目的といたしましては、「町田市の現状と今後」というのは、図書館だけではなくて、公共施設全てということも含んでのことと、図書館の置かれている状況等を理解してもらった上で、鶴川地域図書館のこれからについてさまざまなご意見やアイデアをもらうということを目的として開催いたしました。

スケジュールですけれども、これは線で消してあるのですけれども、意味は

ございませんで、第1回が5月13日午後2時から4時まで、鶴川市民センターで行いました。この回は17名の参加ということになっております。2回目が5月25日金曜日、夕方の18時半から20時半までということで、和光大学ポプリホール鶴川の多目的室で開催しました。この日は13名参加で、1名欠席でした。お二人の方が見学ということで、ワークショップには参加しませんでしたけれども、2時間ずっとおつき合いいただいたということになっております。

当日のプログラムですけれども、2時間ということで短い時間ではあったのですけれども、最初に町田市側から本日の目的とか流れを説明した後に、約10分から15分程度、「町田市の現状と今後、鶴川地域の図書館を取り巻く状況」ということでご説明をしました。内容といたしましては、今、町田市公共施設等総合管理計画というのができて、もうすぐ町田市公共施設再編計画を策定いたしますということと、そこでどのような観点から検討されているかという概要をお話しいたしました。

次は図書館に移ってきて、図書館が今、町田市内のどのような場所にあるかということ、もう1つ、今の町田市5ヵ年計画17-21の中で図書館の再編というのが掲げられているので、そのスケジュールがどうなっているかということ、あと今回は鶴川地域の図書館というテーマですので、鶴川地域にある2つの図書館の利用状況等のお話をいたしました。

それから、今後考えていく上で、まずは鶴川団地の方の図書館と鶴川駅前図書館の配置図等を含めた概要と、いろいろなご意見を伺いたいということで、鶴川団地などで行っている地域再生とか、地域の交流を図るような動きはどのような動きがあるかという事例を紹介いたしました。そこが今この資料で言う③のところになります。

あと、グループワークの進め方等を簡単に説明して、その後、グループワークを行いました。グループは、当日、3グループに分けて行った訳ですけれども、まずは参加者の方ご自身が例えば鶴川図書館だったり鶴川駅前図書館などをどのくらい利用しているかという利用頻度と、どんな利用の仕方をしていいますというお話を、自己紹介を兼ねながらそれぞれが出し合いました。

そこで、現状の図書館の使い方をそれぞれチームのメンバーが共有した後に、1回時間を置きまして、⑥のところですが、補足説明として参考と

なる主な「事例カード」の紹介という説明をいたしました。どういうことかという、これは図書館に限らず、本にかかわるどんな動きがあるか、日本中いろいろなところで行われている動きを少し紹介したということになります。

まず、その前に大前提として、今まだ決定した訳ではないのですが、鶴川団地の建て替えがURで検討されているということで、まだ正式なスタートを切ったという訳ではございませんけれども、地元の方に説明会などをしながら、情報の共有化を進めているということで、大前提としては、とりあえずは何年か後というのは明確には言えませんが、団地の建て替えがあるであろうという大前提のもとに、その後に鶴川団地の図書館は、どんな使い方がしたいとか、どんな機能は必ずなければ困るといったお話、駅前の方は逆に建物は新しいので、それを建て替えるということはありませんけれども、複合施設の中では、例えばこんな使い方がもっとできるのではないかと思いますお話ができればいいというような前提の中で事例の紹介を行いました。

紹介した事例は、本にかかわる事例なので全然図書館と絡まない事例はあるのですが、小布施町でのまちじゅう図書館の取り組みとか、町田市にもあると聞いていますけれども、まちライブラリーの取り組み、あと図書館で言えば、伊万里市の市民図書館の市民も図書館づくりからかかわったような事例、地域の方の取り組みとしては、これは図書館ではないのですが、例えばNPOの団体などが本に触れる機会を提供して、民間図書館みたいな形で活動している事例、それから民間を主体とした取り組みでは、読書を介したイベントということで、例えばお薦めの本を持ち寄ってグループで話し合う、それを町中で行う、商店街のアーケードの中で行う事例も紹介しました。

あと、子育てのお母さんたちが集まりやすい場所づくり、それから、これから高齢者が増えますけれども、民間が送迎バスを出して買い物に出かけるような仕組み、それから自治体主導では複合施設の中の図書館、鶴川駅前も1つ出しましたけれども、あと町田市でも行っているような移動図書館、これも町田市でも行っている予約の本だけとりに来てもらうような場所、予約の受け取り場所の事例というようなことも説明しつつ、今までの図書館にとらわれず、いろいろお話をしましょうということで行いました。

⑦は、ここからは短くなってしまったのですが、グループごとにいろ

いろ建て替え後の鶴川地域を想像しながら図書館を考えていただくということで、これが一番メインの取り組みになります。

最後に、グループごとに、これが結論というのはございませんけれども、まとめた中で発表をしていただいて、最後にファシリテーターの方から総括をしていただいたということになります。

特徴としては、鶴川団地の図書館は現況の使い方の中では、出た意見を少し紹介しますと、新聞とか雑誌、本を読んだり、あと散歩コースの1つとして立ち寄ったり、買い物ついでにというような本当に地域に密着した図書館というような使い方が多かったのかと思います。あと、鶴川駅前の現況の使い方としては、買い物ついでというのもございましたけれども、複合施設ですので、何かあそこのイベントがあったときに立ち寄るとか、あと席も結構あるので、調べ物のときには鶴川駅前の方が便利であるというようなお話もありました。

それから、今後の図書館の使い方ということでは、まず鶴川団地の方は、さっき言ったように、散歩のついでとか買い物ついでみたいな生活と密着した使い方が多いということでしたので、生活者目線での使い方というのを大事にしてほしいみたいなこととか、あと、お子さんが本に触れる機会は図書館は大切だねというようなこと、それからちょっと違う話では、図書館運営の担い手としても、今までのやり方だけではなくて、ボランティアの方にもう少し携わってもらおうというようなことも、市が公共で行う部分、ボランティアの方をお願いする部分みたいな役割を整理する必要があるのではないかというような意見も出たと思っています。

あと、駅前の方は複合施設の強みももっとこれからもどんどん生かして、今はちょっと足りないという側面があるのかもしれませんが、もっと生かしてほしいということ、あと、どうしてもああいうしつらえですので、1階からの音とかにおいが気になったり、駅前だから仕方ないのかもしれないけれども、駐車場等の問題というのはやはり今後考えていかなければいけないのではないかということが出たと思います。

本当に概略なのですが、そのような意見が出て、今の取りまとめは本当に簡単なまとめなので、それが正しいかどうかはじっくり報告書をつくりたいと思います。各チーム、3チームとも、どんな使い方、今後の使い方という

ことで本当に多数の意見が出ていますので、それをまたまとめて報告したいと思っています。

館長報告としては以上になります。

○山口委員長 ありがとうございます。今日は、教育委員会報告は図書館関係はないということで割愛をされておりますので、主に5月13日、25日に行われた「鶴川地域図書館のこれから」ワークショップの内容がメインになるかと思います。これにつきまして、まだ簡単な資料の報告しかないのですが、鶴川地区の図書館の今後のあり方の問題、とりわけ地域の利用者の方たちの意見ということです、ここら辺について少し検討していきたいと思います。

まず、確認ですが、主催者は町田市立図書館ということでよろしいでしょうか。

○近藤館長 図書館が主催ということですがけれども、団地の活性化ということも少し観点にあるので、住宅課とかもある意味一緒にやったということです。主催とか共催とかは特にうたっていませんけれども、図書館単独ではなくて、関連部署と協力しながらということです。

○山口委員長 わかりました。縦割りではない、横につながってというところはいいかと思います。

あと、先にもう少し確認ですが、参加者のところで第1回、鶴川市民センターが17人、第2回の和光大学ポプリホール鶴川だと13人で2人見学とあるのですが、参加された方はおおむね地域にお住まいの方が中心だったのでしょうか。

○近藤館長 まず、参加していただく資格ではないですがけれども、町田市にお住まいの方ということでお話ししまして、厳密な意味では、町田市のどこに住んでいるまでは明確には把握していませんけれども、話を聞いたりすると、広い意味での鶴川地域が中心ということで、鶴川の地元はもちろん、三輪の方であったり、小野路とか、広い意味での鶴川地域の方が中心ということだと思います。

○山口委員長 わかりました。

あと、これについていろいろ質疑してみたいのですが、鈴木委員が参加されているので、鈴木委員からさらに説明などをいただければと思います。

○鈴木委員 報告は今回の「知恵の樹」に載せていますので、重なる部分も多いかなとは思いますが。どのくらいの方が参加するかと思ったら、3グループができるぐらい、17名の方が参加して、最初にスライドを映して、いつもの市の企画政策課が説明会をいろいろしてきたような感じで、公共施設の再編計画の説明がありました。どちらかというと、図書館も再編するという方向で人口減と財政難ということの説明は、市の職員の方がなさったのではなくて、コンサルタントの市浦ハウジング&プランニングというところがされました。

その後のグループワークが、鶴川図書館がURの建て替えとともに建て替えられたときに、どうあったらいいかというような話で、今までずっと再編計画のことは、そこに残すかどうかという話なのかなと思って参加したら、そうではなかったので、最初のスライドの説明後すぐに、建て替えられたらどういう機能があったらいいとか、そういう話になったところが私は違和感がありました。ほかに後から25日に出た人なども、そのような話をしていて、市の職員の方で企画の方たちがそういうことをずっとしていらしたので、なぜ外部のコンサルタントを使って、その人たちは鶴川のことはよく知らないで、書類上とかのぞいて知ったような人たちが説明すること自体が私などは違和感があったのです。

実際に話し合いになったときには、図書館の方がファシリテーターですか、司会というか、各グループにそれぞれ図書館の方が入って説明して、上手に皆さんの意見を出すような感じにして、それらの意見をふせんに書いてまとめていくというか、どんな使い方をしているとか、そういうものも全部貼っていつて、どういう使い方をしたらいいかというのも貼っていったのですけれども、参加した人たちは、そういう形だったので、図書館はどうあってほしいという意見がそれぞれ均等に出せて、1人の人がしゃべるというのではなくて、その辺は上手に進めてくださいました。

この話し合いというのがどういうふうに生かされるかというのは参加者の皆さんはすごく気になっていて、今までもいろいろな意見書などが出ている。2回も市は意見を募集しているのですけれども、そういうところにもいろいろな意見が出ていて、今回も地域に密着した人たちの意見も聞いたのですけれども、それがどのように今後の市の方針に生かされるかというのが一番気になる

ところでした。

もう1つ、参加の中で2人見学というのが、2人のうちの1人の方は、13日も参加したからといって、どちらか1回しか参加できないという条件があったのですか。その人は、せっかく行ったのだけれども、グループワークに参加できなくて、傍聴者という感じでいたそうなのですけれども、人数がオーバーしていないのに、せっかく来たのに、そういう規定は市の募集には書いてありましたかね。私は話を伺っていたので、どちらかしか行けないということで片方しか申し込みしませんでしたけれども、その辺がせっかくいらした方は残念だったなと思うのですが、そういう意味の2名、もう1人の見学の方もそういう感じだったのですか。

○近藤館長 2名見学の人がいて、1名は今、鈴木委員がおっしゃったとおり同じ方だったので、それはこちらでお断りしました。もう1名の方は市議会議員の方なので、参加するのは好ましくないということです。

○鈴木委員 その場でも、司会をなさった図書館の係長さんは、しっかりと参考にさせていただくとはおっしゃってくださったのですけれども、それがどういうふうに生かされるのかあたりは伺うことができますか。

○近藤館長 例えば公共施設の大きな話で企画サイドがやっている説明会で地元の方に説明したり、あと市民意見募集でいろいろな声も聞いているということですが、それはどちらかという大きな話になってしまって、なかなかこの施設はみたいな話も聞けなかったもので、今回は図書館が5ヵ年計画でも、ある意味幾つか先行している課のうちの1つになっていますから、そういうことで本当にじかに声を聞きたいということで「鶴川地域図書館のこれから」ということで行いました。

それをどう生かすかということは、やはり地元の方の声はこういう声だよというのは、もちろん検討の過程では報告もしますし、まずは部で原案をつくる訳ですが、そこにも、こういう意見があったということはしっかりお伝えしていきます。それだから、こういう方向で行くとか行かないというのは今の段階ではまだ決まっていないので、お話はちょっと……。

○鈴木委員 今この場で方向性が出ているということではもちろんないと思いますが。

○近藤館長　ですから、こういう声が強いということを伝えていくという形になるかと思います。

○鈴木委員　今どちらの方向になるかが、方向として8館を6館にするのを検討するということですが、ワークショップでは、鶴川図書館がもしもなくなったらどうするかという話は全然なくて、話の中ではURがいつになるかわからないけれども、その中に入ったときには、どういう図書館であってほしいかというような感じだったので、そこに参加した人たちは、あっ、いつになるかわからないけれども、URが建て替えをしたときには、図書館がそこにまた入るのだという感じの話し合いだったのです。そこが本当にそうならいいのですけれども、そこら辺がそういう方向性を持って話し合いがなされているということが、もしもそうでないときには、そこに参加した人たちは一体何のための話し合いだったのかなと思ってしまうのではないかなとちょっと危惧しました。

○近藤館長　難しいのは、URの建て替え自体も今の段階で明確にスケジュール化されていないというのが1つあることと、さっき再編という話がありましたけれども、再編ということで、再編があって、例えば鶴川図書館を鶴川駅前図書館に集約して、その後に、でも、こういった機能が必要だということを聞く会議でもない訳ですね。皆さんが図書館をどういう使い方をしているとか、実態をしっかりと伺って、今の再編を考えていくところでの参考にさせていただくということ。

あと、仮に集約という方向が強く出てきたときは、その中からどの機能が大切かというのを見きわめていくというようなことだったので、こちらも、こうなるから、この部分を考えてくださいという言い方ができなかったのも、そこは参加されている方も大変わかりにくかったと思うのですけれども、今回はとにかく地元の生の声を聞くという会として位置づけるという感じだと思います。

○山口委員長　確認ですが、主催者は特にどこというのではなくて、図書館とか住宅課が幾つかかかわるということですが、例えばこの結果をこの後まとめられると思うのです。これについては、例えば定例教育委員会で報告をされたりとか、そういう形で上げていくというのはあるのでしょうか。

○近藤館長 多分この案件だけを教育委員会で特に報告するということはせずに、今まさに検討している内容を、我々は教育委員会に属していますので、教育委員会でまずは原案ということで承認を得ないといけませんから、今は何月と言えないのですけれども、そういうタイミングの中で、例えば昨年、生涯学習部で意見を伺うアンケートを行いました。あと、鶴川の地元からは、こういう会を開いて、こういう声をいただいておりますということはもちろん説明してまいりますけれども、そういった全体はもちろんやるのですけれども、これだけを取り上げて報告というのは多分しないと思います。

○山口委員長 そうすると、昨年の生涯学習関係の一連の調査の1つとしてまとめて、例えば教育委員会での検討の材料にするとか、あとは教育委員会で検討するということになる、それから派生して、今度、6月の議会などもありますから、例えば文教社会常任委員会のあたりで、そういうことも状況として出てくることもあるのかどうかとか、要するに、せっかくやったこの結果が情報としていろいろなところで共有されるかどうかというところが実はちょっと気にはなったところなのです。

というのは、参加者数を見ても、2回に分けていますが、合計すると、お休みがお一人いるので、それでも29人ですね。例の公共施設再編計画の説明会はそんなに大人数が集まらなかった。だから、逆に主題がはっきりしてくると、やはり集まって意見をおっしゃる方もいらっしゃる訳だし、その点で言うと、意外とここに出ている危惧というのは、それはそれなりに意味があるのではないかと思うのです。まだ具体的なまとめを見ていないので一概には言えないのですけれども。

ですので、これは大変いい試みだと私は思うのですが、これをまとめられたときに、例えばそれは庁内印刷みたいな形で冊子になるとか簡単な報告書のようなものをつくれるのか、そこら辺の見通しはいかがでしょうか。

○近藤館長 報告は、まとまったらホームページには必ず載せようと思っていますけれども、冊子をつくって例えば自由に持っていったいいというような形はとれないのかと思っています。基本的にはホームページですね。

○清水委員 今お話を伺っていて脳裏をかすめるのは、南町田の図書館の話が出たときに、南町田のまちづくりをするのに、ワークショップだとか、そうい

うものをいろいろやっていて、図書館が欲しいというように声が出ていたと思うのです。でも、結局、そのときに本があって集まれる場所があればいいのかなということに集約されてしまって、図書館はできずに、それらしきものができそうだというふうな状況が今あると思うのです。

この場合も、鶴川の人たちは本があって集まれる場所、立ち寄れる場所があればいいのかなということで図書館はなくなってしまって、それらしきものができるということになったら、やはり図書館は減るということになってしまうと思いますので、そういうふうにならないようにしていただけたらなと思います。

○近藤館長 南町田の方は、はっきり言ってワークショップ等にも参加していませんので余り言えないのですけれども、少なくとも図書館という話は、こちらに対する働きかけというのは余りなかったと思います。そういうことで今、まちライブラリー的な動きになっているのかと思います。

鶴川の方ですけれども、本があって何か集えるような場所として置きかわったら、それは図書館ではない訳だからというご意見だと思います。そういったご意見があるということは重々重く受けとめつつ、とはいえ、やはり我々としては公共施設の再編計画全体の取り組みの中でどうしていくかという大きな視点もどうしても外す訳にはいけないので、そこら辺との絡みでこれからも検討を続けてまいりたいということです。

○鈴木委員 今度6月に策定する公共施設再編計画の本体の方には、この問題は図書館協議会で意見を聞いて、最終的に教育委員会で決定すると書いてあるのですが、タイミング的なものと、それから例えば意見を聞いて、それが反映されるような段階で協議会に意見を求められるのか、ほとんど本決まりで一応聞くということだと、私たちが幾ら意見を申し上げても、それは反映しにくいと思うので、本年度ということなので、来年の3月が最終締め切りと考えると、タイミング的にどういうタイミングを考えていらっしゃるのでしょうか。

○近藤館長 生涯学習部で案ができた段階ですかね。まだ明確に言えませんが、2つ考えていまして、もちろん教育委員会で教育委員さんにこれが生涯学習部としての案ですということでご承認いただいたら、それに対して変えていくというのは難しいので、その前のタイミングで図書館協議会と生涯学習部全

体で生涯学習審議会というのがございますので、その2つに、まず部としての本当のたたきの案を提示してご意見を伺って、教育委員会にかけていくものをつくっていくというイメージです。

○鈴木委員 その段階ということは、ここに出た意見とか、生涯学習審議会に出た意見がある程度反映される可能性もあるということですか。

○近藤館長 そうです。

○鈴木委員 わかりました。

○山口委員長 生涯学習審議会は、たしか6月下旬が最初の審議会です。池野委員もご出席になると思いますけれども、ですから、通常だと、その場で諮問をいただいて、それについて検討していく、あそこは審議会としてはそういうスタイルなのです。だから、そこら辺でスケジュールも示していただくようになるのかなと私は今伺っていて思ったのですが、今までもたしか生涯学習審議会は、大体初回で諮問と同時にスケジュールが生涯学習総務課の方から示されたので、だから、協議会に来るということが考えられるのは、それが出た後になりますかね。

○近藤館長 その辺のスケジュールは、今、事務局も詰めていると思うので、私が先走ってしゃべってはいけないのですけれども、今回、生涯学習審議会に検討していただくのは、図書館のことと文学館のことの2つなのです。文学館の方は、正直先に原案がまとまりつつありますので、多分先に文学館のことを検討していただいて、その間、図書館をまとめてというような時間差になるのかと思っています。

○山口委員長 生涯学習審議会も、結局、2時間の会議時間で、委員さんが全員お集まりいただく機会というのはなかなかないものですから、一遍に両方同時にというのは多分不可能でしょうね。図書館協議会の方に来れば、それはしっかりと議論できる訳ですが、ちょうど8月ぐらいということは図書館評価も来るので、今期の委員は相当働くということになりますけれども、逆にそれだけ重要な時期に当たっていると思うので、そんな心づもりで我々はいないといけないのかと思います。

このワークショップについてですが、ほかにご意見とかご感想、また確認したい事項などはございますでしょうか。当然、こういった情報は、図書館に限

定されているけれども、生涯学習全体の問題とも言えるし、生涯学習施設の中で一番利用の多いのは図書館というのは前回の定例会のアンケートでも出ていたのですけれども、そんな点から、これについて池野委員、どうでしょうか。

○池野委員 先ほどの清水委員と同じなのですから、こういうものという、どうしても実績づくりというか、やったという実績だけになってしまう。この意見については、では、どこに反映されたのだというのが見えない。これは過去からずっとそういう形があると思うので、ぜひそういうものを実績だけでなく、やはり中身を見て今後に生かしてもらいたいなど。私たちがそういう声を上げていかなければいけないと思うのですけれども、そういうような形で考えております。

○山口委員長 ありがとうございます。こういうせっかくの機会を設けて意見を集めた訳ですから、ぜひそれは協議会だけではなくて、生涯学習審議会にも働きかけてみたいと思います。これについてどうでしょうか。市民活動という視点からなので、若色委員、いかがですか。

○若色委員 とてもいい取り組みだと思いますが、市民がこれから自分の地域で、図書館なり違うことでもそうですけれども、どういう形で描いていくかというのはすごく大事なことだと思うのです。描いて共有して、そこで答申していくなり何なり意見を言っていくというのはすごく大事なことだと思うので、とてもいい取り組みだなと思いました。

あと、実績づくりというお話がすごく今、私は実感するところがありまして、いろいろなところでパブコメを求められて、そのパブコメがホームページ上に載らないことも現状あったり、経験もあったりするものですから、市民の声がどこまで反映されているのかというのはちょっと疑問なところもあります。なのに、そこにコンサルという外部からのものを導入する、それも市民のお金というところで、このコンサルがどこまでワークショップなり地域のこれからの力に役立つのかというのが私には正直見えてこないのですね。

私たちの団体も、「まちカフェ！」というのにも参加させてもらって、コンサルが入って反省点なり何なりというのを終わった後、皆さんとお話ししたりするので、それが次の機会に生かされているかという、そうでもなかったという実感を持ったものですから、私たちは「まちカフェ！」から手

を引いた。コンサルの意味というのが難しいなというのが正直なところですよ。ごめんなさい。ありがとうございました。

○山口委員長 貴重なご意見をありがとうございます。いろいろなところでコンサルが入っていたり、それを見ている訳ですけども、今回はこれはどこで選ばれたのですか。

○近藤館長 今回は単に説明会とかご意見を聞くというよりも、まずはグループで話をしながらというのがいいかと思ったのですよね。その方が本音というか、特定の人がしゃべるのではなくて、みんなの意見を聞けるかと思って、まず、そういう形をとりたいと思いました。

そのときに、図書館の方ではワークショップを開いた経験がなかったので、今回は、さっき住宅課の名前を出しましたがけれども、あと公共施設の再編をやっている担当課、その3課が協力して今回いろいろ動いているのですけれども、その3課で話し合いをした中で、住宅課がそういうことを違う団地でやっていたりもするので、そちらから経験をということで、住宅課にお願いして今回はコンサルを選んでもらったという形です。

ただ、今回、コンサルは入っていますけれども、初めてだったので我々も勉強になりましたし、流れとしてはわかったのですけれども、現実問題としては班のファシリテーターが一番重要だったと思うのですよね。それは図書館員がやりましたので、正直この2回の前に我々は結構時間をとってシミュレーションではないけれども、こんな意見が出たらとか、みんなの意見を聞き出すのには、こういうふうに司会をしなければいけないよねとか、そういう練習というか訓練をしましたので、こういった経験は、今後次がどうなるかまだわかりませんが、そういう意味ではしっかり生かしていけるのかと思っております。

○山口委員長 ワークショップ形式で議論というのは、実は生涯学習審議会でもよくやっているのです。生涯学習系の方たちは慣れていらっしゃるのです。いろいろとやるのですけれども、慣れるとそんなに難しくないのですよね。むしろ今、館長が言ったように、ファシリテーターが重要だと思いますから、できれば自前でやれば、今後もっと細かい意見の聴取、だから、それこそこれはホームページには出ないかもしれないけれども、がっちり意見はその場で聞きま

しょうとか、利用者懇談会というのでありますけれども、あれなども実はワークショップ形式にしたらもっと声が出やすいのではないかと思います。

そういう点では今後につながる部分もあるのかとは思いますが、今、図書館的なものが、南町田駅周辺再開発に関連してちょっと出てきましたけれども、公共図書館の役割の問題とかもあると思うのですが、そのあたりについてはご意見はいかがでしょうか。図書館関係ということで瀧委員、いかがでしょうか。

○瀧委員 鶴川の地域の図書館というのが、駅前ができてから随分役割が変わったのだろうなというのは感じているところなのですが、その一方で、あそこの地域の方たちにとって長い間、鶴川の図書館としてあったものなので、地域の方にとっての図書館はやはり鶴川のセンターの図書館なのです。小ぢんまりとしているけれども、頼めば本が届くし、だんだんと遠いところに行けなくなっている高齢者の方も増えてきている中で、あそこに図書館があるということが非常に自分たちにとっては助かると思っっている方がいるというのは近所に住んでいる方から伺ったことがあります。

それが鶴川駅前の図書館と、いわゆる団地のセンターのようなどころにある図書館の役割の違いというのは、きちんと捉えておかないと、ただ近くにあるからいいとか、役割としてはもう図書館の役割は全くなくなってしまって、例えば団地だから子どもたちの絵本があればいいのだみたいな形に誤解というのですが、見た目の概念というか、何となくこうではないかみたいな形で進んでしまわないように、本当にそこで何が必要とされているのかを見落とさないようにみんなで話し合いをしていくということはすごく大事なかなと思っています。

今回、やはりこういうふうに開くと、関心のある方はいらっしゃるのですが、本当に普段から来ている方が参加しているかというと、なかなか難しいですね。昼間、そういうところになかなか出られない方とか、余りそういうところに出ないけれども、普段図書館を使っている方、本当に使っている方の意見をどうやって酌み上げていくのかというところが今後のところでぜひ努力していただけるといいなと思っていますところ。

○山口委員長 ありがとうございます。確かに開催場所は、要するに、この市

民センターは、第1回目は鶴川団地図書館に比較的近い場所ということですね。2回目は、当然ポプリホールですから複合施設にはない図書館がある。それぞれの利用をされている方がある意味意識していらっしゃったのかなとも拝見はできるのですね。

○鈴木委員 時間は一応変えてくださっているというか、日曜日の昼間と金曜日の夜ということで、どちらかには出られるようにという配慮はしてくさっています。

○山口委員長 ちなみに、館長に確認したいのですが、参加者の年齢的な分布ですね。要するに、何歳から何歳ぐらいの方が集まっているのか、概略で結構です。

○近藤館長 年齢は聞いていないのですけれども、見た印象ですけれども、どちらかといえば中高年で、お子様を育てている方が少し、各グループ1名はいなかったと思うのです。お子さんも大きい、中高生とか小学生、わからないですけれども、お子さんの話をしながら語っている方も何名かはいらっしゃったという感じですね。

○山口委員長 これはどうしても地域に密着した図書館なので、地域の生活の利用というのはある訳ですけれども、鶴川のあたりというのは大学もありますし、団地図書館の近くは小学校も中学校もあるのですね。だから、学校との関連というのも本当は見落としてはいけないのかとは思っているのですけれども、今日は鶴川地区の方がいないのです。身近になればなかなか使えないと思うのですけれども、そこら辺はどうですか。石井先生も小学校にかかわっていらっしゃるので、図書館とかの関係でいくと、小学生などが歩いていける距離というのはどのくらいまでとお考えになりますか。

○石井委員 ちょっと微妙ですね。何と表現したら合うかというのは微妙で、私が勤めていたところなどでも、最寄り駅というイメージが何百メートルか違うだけで鶴川の子がいたり、玉川学園の子がいたり、町田の子がいたりする雰囲気、ほんのちょっとでしょうと。例えば何百メートルしかずれていないから大丈夫でしょうといっても、それはそうではないのだということはわかっていないといけないことなのだろうと思いますね。今この2つの図書館が鶴川地区にあるからといっても、その距離は大したことないと言っている人は本当

に使っている人かと言われたら、なかなか難しくなってしまうと思います。

○山口委員長　ありがとうございます。確かに小学生の足だと1キロといったらかなりありますので、離れていくと当然使わなくなるでしょうし、そうすると、団地の図書館と駅前の図書館というのは使われ方が微妙に違うけれども、両方1つの図書館のような機能を持っているし、また、それぞれの場所にあるから、そこで活用されてきているというのはありますね。

これは前に生涯学習審議会で伺った話ですけれども、海外などで生涯学習施設という、まず、公共施設は50年程度で建て替えなどしていない。60年、70年、100年となると、それは地域にも愛着を持って迎えらるのだということを伺ったことがあるのですけれども、仮に建て替えをしたとしても、そこにある図書館というのがずっと使われていく、地域に密着をしていく。それは多分5年、10年ではなくて、そういうタイムスパンだと思います。

さっきまちライブラリーの話が出ていたのですけれども、これはたしか南町田ですか、再開発を入れようと検討がされているという話を伺っています。ただ、要するに運営母体はというと、いわゆる公共施設ではないので、その場合、100年続けられるのだろうかという問題があるのですね。継続性というのはすごく重要です。

もう1つは、図書館的なものという表現がさっきから飛び交いましたけれども、図書館というのは単なる読書施設ではないので、情報提供とかレファレンスサービスとか、さらには学校支援とか、あとは障がい者サービスとか、いろいろなことがあって、それは民間ではできないから公共がやるのだ、そこだと思ふのです。だから、そこは図書館法などでも、やはり自治体が運営するということと、そこに設置するということに意味がある訳ですね。

ですから、そう考えてみると、図書館的なものができて、その場しのぎで果たしてその場で満足はできるのだろうか。むしろ将来的にそれは大丈夫なのかという不安はありますね。民間の施設ですから学校支援などは当然できない訳です。そうすると、学校図書館などが決して充実していない現状において、もっと全体が後退してしまうという危機感もあるのですね。

ですから、鶴川の動きというのは決して鶴川だけの問題ではなくて、今後の町田市におけるいろいろな図書館のあり方とか生涯学習のあり方とか、場合に

よっては学校との連携ということにもかかわってくるし、民間がやった場合、そこにボランティアがかかわるのかという問題も当然ある訳で、そうすると市民活動とのかかわりも出る訳です。

ですから、決してこれは小さな問題ではないと思います。そういうところにワークショップという形で1つ活動をされたというのは私は大変おもしろいと思うので、結果をぜひ拝見して、またいろいろ考えてみたいとは思っています。

もう1つ、町田市の図書館でこういうワークショップというのは余りやっていないですね。館長、今までないですね。

○近藤館長 私は図書館が結構長いですが、初めての経験です。

○山口委員長 もうちょっとずばりお聞きしますけれども、いろいろな意見が出ているところを伺っていらっしゃったと思うのですが、例えばふだんの利用者懇談会とか、いろいろな形で市民から要求とかコメントはあると思うのです。今回、いろいろなところで聞こえてくる話を伺っていて、どんな感じに受け取られていたのかなと思って、済みませんが、感想だけで結構です。

○近藤館長 あくまでも感想ということで、利用者懇談会も、それほど人数が集まる訳ではないのですけれども、私が今まで出たことのある利用者懇談会の経験で言うと、その人個人の要望を伝える場に今までの町田市の利用者懇談会はなりがちだったのかなと思っています。ということで、何かテーマを設定して、これについて話し合えようみたいな形でもやったことがあるのですけれども、そのときは逆に人が集まらなかったというような傾向がありました。

今回は、私はファシリテーターでもなくて、そばでぐるぐる周りながら話を聞いていたので断片的ではあるのですけれども、それぞれ図書館の大切さとか、いろいろな使い方をお話ししていくのを聞いていると、もちろん個人のご意見として言っているのですけれども、個人のご意見というよりも、もう少し広がりのある共通性のあるというふうに聞こえましたね。ですから、あそこで伺っていた意見は、ある意味ほかにも同じ賛同される方が多いのかなというようなことは感じました。

○山口委員長 ありがとうございます。図書館を利用している人たちのもう少し大きな声というのがはつきり出てきているのは、ある意味注意していかない

といけないかなとは思うのですね。このワークショップ、これは今回、鶴川地域図書館ということで実施されていますけれども、例えばほかの図書館に関して、これに類するようなことを今後、例えば図書館単独でも含めておやりになるようなことはお考えになっているのでしょうか。

○近藤館長 その辺については、今現在は正直なところ未定ということで、なぜ鶴川地域を先行したかという、鶴川団地の建て替えという話がどうしてもあったので先行させていただきましたけれども、それ以外、あるいは町田市の図書館全体を考えるような会を今後開くかどうかというのは今現在も未定です。

○山口委員長 こういうワークショップ形式で市民が図書館を考える機会というのは、そんなにしょっちゅう全国的に行われている訳ではないですが、先ほど事例で出た伊万里市民図書館は、まさに建て替えをするから、みんなで考えようというので市民を巻き込んだ。それこそわざわざ視察にアメリカまで行くのですよ。お金は多分自腹なのでしょうけれども、それからここに建てるとき、土地の地鎮祭から全部市民が参加して、ちょっとイベントっぽくしながら、みんなでゼロのところからかかわっていく。

その結果、図書館フレンズいまりという図書館の友の会ができるのですね。それが結局、図書館をサポートしつつ、伊万里市民図書館というのは全国的に有名になっていったという経緯があります。おととしの図書館大会で当時の館長さんに来ていただいてお話を伺ったので、記録は日本図書館協会の全国図書館大会記録集にありますけれども、そのような具合だったのですね。

ですから、最初は減らすかどうかという議論、そこら辺の不安はよぎる訳ですが、ただ、かわりに建て替えでまたできるとなれば、こういった流れをうまく次の図書館の中へつないでいく、これはかえっていいことだと思うのですね。そこはぜひそうなるように、我々もいろいろ考えたいと思いますけれども、ぜひ取り組んでいただければと思う訳です。

○鈴木委員 鶴川駅前図書館ができたときには、ワークショップはあったのですけれども、図書館の方がそこに入っていない段階で話になって、かなり決まってから図書館の方が加わったのですね。だから、本当にどのようにしたら図書館が使いやすいのかなどについて、市民との意見の交流がないまできたの

ですね。もし今度鶴川の団地の図書館が建て直しをするということになったときには、ぜひちゃんと図書館の人たち、市民の人たちが一緒になって相談してほしいなと思うのですね。

ポプリホールの場合は4つか5つの課がかわったのですね。最初のスタートが企画調整課、建設部が入って、市民部が入って、最後、文化振興課でしたか、私は全部関わっていたのですけれども、どんどん担当が替わっていき、もちろん記録や何かもあるでしょうけれども、人がどんどん替わっていくので、一貫したものがない感じなのです。だから、極力その部分に関しては、最初から一緒に図書館も市民の人の意見も直接聞いていただく。今回のワークショップみたいな形のものをぜひしていただきたいと思います。

さっきおっしゃったように、ワークショップということが多分まだ慣れていられちゃなくて、外部のコンサルタントを使われたというのもよくわかったのですけれども、ああいうプレゼンテーションのところなどは、やはり直接市の方とか図書館の方がしてくださって、後ろでこういうふうにやった方がうまく話がまとまっていくとか、ノウハウの部分はコンサルタントの力を借りるのもいいと思います。図書館の方のファシリテーターが上手になさっていたのです。

そういうものも、こんなふうにするといいというシミュレーションもなさったと言うけれども、最初はコンサルタントからも話を聞かれたりされたのだと思うから、そういう部分は慣れていないことはコンサルタントの知恵をかりるのもいいけれども、やはり訴える力というのは、いろいろなことがわかっている人から話が行かないと、そこに初めて来たような人が話をしても、何か空々しい感じもしてしまうので、次回のために申し上げておきます。

○山口委員長　ありがとうございます。鶴川駅前図書館の経緯は、私も当時もう協議会の委員をやっていたのでわかっておりますけれども、確かに図書館が最初からかかわっていなかったのが、建物の真ん中に吹き抜けのある図書館ができたので、あれは図書館建築としては考えられないのですね。穴があいて、最初はまだ段差もあるなどということで、その後、随分図書館の現場の方たちがそれを修正するように折衝されたご苦労を伺っています。

だから、やはり最初から主体的にかかわってくださった方が図書館にとって

も、職員の方たちにとってもいいと思うのです。建築設計される方は、その考え方がおありだと思いのだけれども、一方で使う側の使い勝手ということのある程度意識しないと、やはり長く使ってもらえる建物や施設ができないのですね。

ですから、ライブラリアンや博物館だったら学芸員、キュレーターの意見とか参加というのは不可欠なので、そこに市民が参加してうまくいったのが伊万里市の図書館の例だと思います。多分この事例は、ファシリテーター役の方が集められたのかなという気がするのですけれども、私にしてみれば、伊万里市民図書館はピカイチですけれども、ほかは図書館とはまた違うのではないかな。そういう点で大分それぞれ違いはあるような気がいたします。

鶴川のワークショップについては、こんなところでよろしいでしょうか。何か確認、その他についていかがでしょうか。

では、鶴川の件は一応ここまででよろしいでしょうか。

ちなみに、結果はホームページで公開というのは大体いつごろになりそうですか。

○近藤館長 まだスケジュールがはっきりしていないのですけれども、この前終わったばかりなので、6月の末ぐらいにはなってしまうかなという気はするのですけれども、そこはまた確認します。

○山口委員長 これは図書館のホームページですか。

○近藤館長 図書館のホームページに載せます。

○山口委員長 また、そこでいろいろ詳細も見えるかと思うので、検討を深めたいと思います。

それでは、次第の館長報告は以上です。

協議事項として図書館評価についてという項目が出ていますが、今日お手元に図書館評価の冊子が配られているかと思うのです。これについては何かそちらから説明等はございますか。

○近藤館長 皆さんからいただいた評価をこういう冊子の形でまとめて、まとめ終わりましたということで、特段今日お話しすることはないのですけれども、夏になると思いますけれども、また昨年度の分をお願いいたしますので、そのとき、よろしくお願ひしたいということでございます。

○山口委員長 わかりました。このスタイルの図書館評価も2016年度まで進んだので、ページをご覧になるとわかりますが、経年変化が見えるというのが一応このスタイルの図書館評価の特徴ということで当時導入された訳で、ちょうど4年分が出るようになりました。今、2017年度、2018年度までが空欄になっていますが、2019年度というのは次の計画でよろしいですか。この評価のところに含めるということでしたか。

○近藤館長 今この表を見ていただくと、2017年度、2018年度が空欄なので、ここまではこの形でいきまして、図書館事業計画を1年延長して、今度、生涯学習推進計画の方にそれも含めた形で載せていこうということに2019年度からなりますので、2019年度につきましては、この形を継続するのか、まるっきり同じということはあるまいかと思うのですけれども、どの程度見直ししていくかというのは、また別途機会を捉えて皆さんとお話しして決めていきたいということになります。

○山口委員長 その件で前にも協議会で話題になったのですが、町田市は図書館評価、外部評価、年数だけではかなりほかの自治体より長いのです。当初の評価を見直して今の形で来ているのですけれども、実際に出てくる項目などが利用者、市民目線からわかりにくいのではないかという意見はいろいろ伺ったりしているのです。要するに、行政としての事業報告または評価というのは、それはそれであると思うのだけれども、図書館評価というと、図書館法で改正されたときに出ているのは、図書館の運営について適正にということで努力目標みたいな形で出るのですね。

ただ、運営というのは、結局、事業の評価だけではなくて、サービスなどの評価というのも当然あると思うし、そもそも図書館というのは情報サービス、市民に図書館サービス、図書館法では図書館奉仕という言葉を使いますが、それをするのが目的ですから、その部分の要素は入れていかないと、なかなか利用者、市民の方にしっかり読んでいただいて、いろいろ考えるきっかけにいただくことができないのではないかと思います。

なので、まだ時間はあるとは思いますが、次の計画、図書館評価ですか、どの段階から図書館の方で検討をされ始めるのか。もちろん、上部計画があってというお話もあるけれども、そこら辺の見通し。あと、協議会と意見の交換

をしたいということは前から申し上げている訳で、それをどのタイミングで図っていくのか、そんなことも見通しですから確定ではないのですが、そこら辺、館長は今どんなふうにお考えなのか、聞かせていただければと思います。

○近藤館長 今年度は正直図書館評価と先ほどお話しした再編とか、図書館のことを皆さんにご意見を伺わなければいけないので、今年度はやっている時間はないと思うのです。ですので、来年度の春、ちょうど今ごろですか、春から夏にかけてぐらいが少し落ちついて、ただ、それも図書館の今の5ヵ年計画にのっている話が多少ずれこむ可能性もないとは言えませんが、今の段階ですと、少し余裕があるときにやり出した方がいいかと思うので、2018年度中に少し取っかかりというか、概略をやれたらいいのかなと思います。

○山口委員長 ありがとうございます。それはぜひそのタイミング、今の期が続きますので、外部評価を2回経験したところでどうでしょうかということで検討できると思うので、その方向でできれば。もちろん、ほかのスケジュールがずれてくれば違うと思うのですが、できれば取り組めるようにしていきたいと思います。

図書館評価、一応冊子でまとまりましたけれども、これについてコメントなどがございましたら、または今の次の評価への検討などについてもご意見とか、ここは自由にご発言いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

ちなみに、冊子は図書館で配布していないのでしょうか。

○近藤館長 図書館の蔵書として、資料としてももちろん受け入れているということと、ホームページとかで出していますけれども、自由にお持ちくださいというふうにはなっていないかと思います。

○山口委員長 わかりました。

○瀧委員 たしか去年でしたか、おとしだったか、図書館の中のどこかに置いて見ていただいて、それで感想をいただいていたような気がするのですが、それは今年はどうされるのですか。

○近藤館長 たしかこれを市民の方に見ていただいて、数人の方から感想をいただいたと思うのですが、それは同様だと思います。

○山口委員長 冊子にはなりましたが、これについてはあとほかにいか

がでしょうか。まだ次の外部評価は8月になるかと思うのですけれども、今からこんなことはしておいた方がいいのではないかと、考えた方がいいのではないかとすることがあれば、また議論していきたいと思います。

○鈴木委員 図書館友の会全国連絡会で図書館評価の項目というのが（まだ完成していませんが）あります。これはその年の事業ですけれども、本当に抽象的な評価ではあるのかもしれないけれども、ああいうものなどの方向というのはどうなのですか。

○山口委員長 今、鈴木委員がおっしゃったのは、図書館友の会全国連絡会という組織がありまして、これは市民の図書館に関するさまざまな団体がネットワークになっているのです。そこが「私たちの図書館宣言」というのを以前出しておりまして、その項目に合わせて図書館評価を市民の目線でやろうというのでずっと案を練っているのです。当初相当細かいフォーマットができて、それはちょっと難しいなというので、大分それを簡略にして、要するに、図書館について基礎的な知識がなくてもある程度わかる。さらに、図書館の人間でないとわからないというのでは困りますから、市民で図書館を利用し、見ていてわかるということも含めて項目を今検討中なのですね。

実は今日は日本図書館協会で図書館友の会全国連絡会の総会をやっていて、そこで原案が出されて承認または意見が交わされていると思うので、まだ完成形ではないのです。それができ上がってきますと、いわゆる事業評価ではなくて、サービス評価の側面が強いので、その部分は町田市の評価にはある程度取り込むといいのではないかと私などは見ているのですね。なので、プロジェクト班の人たちといろいろ意見交換をしてみたいと思っています。

○鈴木委員 あれは図書館側でないとできない部分があったり、網かけになっている部分、それと市民側の合体というのですか、両方が協力し合っているような部分もあります。町田市の前5年間は図書館側が評価をして、それにまた協議会が評価をするというシステムでしたね。ちょっとそれに近い。今のは、図書館側は特に評価しないというか、ここには書かれないですね。けれども、図書館側がどう考えているか、どう評価しているかということのも織りまぜるのもいいような気がします。

○山口委員長 今この枠組みのことで話題になっているのですけれども、例え

ば現在の図書館評価だと、図書館側は業務内容を記述した後に特記すべき取り組みというものを書いている訳ですけれども、ここは外部評価のときに随分話題になったと思うのです。ここら辺については、ご感想も含めていかがでしょうか。

特記すべき取り組みとあるけれども、あと数値だけで説明しようということなのですけれども、その前の評価のときは、図書館側で取り組みと目標ですか、それに対してどうであったかという各部署の担当の感想というか、それで一応ABC評価で、現場はBとか書いてあって、外部評価者は例えばCとしたりAとしたり、その理由というのでコメントを書くスタイルだったのです。

そのときの委員さんたちは、ABCとつけるのがなかなか難しいと。要するに、どこで切るかというところもあるし、Bといっても限りなくAに近いBもあれば、限りなくCに近いBもある。外部評価する側もちょっとやりづらかったという意見が出て、こちらではABCがなくなったのです。

ただ、特記すべき取り組みというのは、特記というのは私などはすごくひっかかっている訳ですよ。ここら辺は実際に評価活動をされた中でご意見、ご感想があれば話題にさせていただきたい。できれば今後に反映してもらいたいなと思いますけれども、むしろグループリーダーでまとめられた方が非常に苦勞されたのではないかと思います。

○清水委員 最初のころは特記すべき取り組みというところに、担当の方によってたくさん書かれる方もいれば、ほとんど書かれない方もいて、数字と特記すべき取り組みだけで読み解いていくというか、それを評価するというのは、どこまで何をどう考えればいいのかというのがすごくわかりにくくて、今度、こちらはそれをコメントで書かなければいけないということで本当に難しいと思いました。

このところ、特記すべき取り組みにたくさん書いてくださっているのですけれども、今度はそれが本当に特記すべきことだったのか、去年と同じことを書いても、それは特記すべきことなのかどうかというのが何だかまたちょっとわからなくなってきた、前のときには目標があって、それについて達成したかどうかということで評価していたのですけれども、今回の場合はどういうふうに評価すればいいのだというのがいまだにはっきりとわかっている訳ではなく

て、それはある程度こういうふうにしたかったのだけれども、こういうふうにならなかったとか、将来的にはこういうふうにしたいと思っているのだけれども、今はこういうところなのだから、そういうことがある程度評価する方にも伝わってくるような書き方をしていただいた方が、この数字を見て、どういうふうに考えればいいかというのは、いろいろなふうに考えられるということもあるのです。

それが的を射ているかどうかというのは評価する側もすごく不安になることなので、もう少し意図するところがどこにあるのかということは、こちらに伝えていただけるような、ここに書いていただくということももちろんですが、ほかの方法で伝えていただくということでもいいかと思うのです。何かこれだけでは、とても雲をつかむような感じが、特に最初にされる方などは、そう思うのではないかと思います。

○山口委員長　ありがとうございます。やはり特記というのは非常に解釈が難しいなと思うのです。今、評価書の目次のところをご覧くださいますと、シート番号と中事業名、業務とあるのですね。中事業名というのは、大事業、中事業というので、業務計画の方から来ている訳なのですが、例えば実際に何年か続けてみて感じたのは、図書館の事業として項目を分けている訳です。

だけれども、利用者の側からすると、受けるサービスの視点で見るから、例えばこの場合、障がい者サービスが12で、18に障がい者向け普及というので項目が2つに分かれています。でも、これは実は障がい者サービスという1つのサービスでまとめて記述できないのかなとか、そんなことも実際に感じたりする訳です。

例えば、今たまたま障がい者サービスのところを取り上げたのですけれども、ここら辺、ご担当されて、小西委員は今年初めてやっていただいたのですけれども、ご感想はいかがだったでしょうか。

○小西委員　事業計画に基づいた評価項目として出されているので、事業の内容の評価だということは理解はしていたものの、それを私がどう判断すればいいのかというのは、こういうことをやりましたということに対して、どう評価するかというのは難しかったです。それをやった結果、こうなっているというのがそうクリアに出てくるものではないのはわかってはいるのですが、その行

き先とか、ここで言うと、例えば障がい者の方の登録率、別途登録が必要なので、登録率をアップさせたいというのはここ何年かの課題なのです。それに対して取り組みはされているけれども、これといった成果が出ていない中でどうしていくかというのは、恐らく担当の方もどうするのかな、どうしたらいいかなと思っていらっしゃるし、私自身も、どうしたら上がるのかなというのはわからない。どうしていったらいいのだろうかみたいなのがあって、一生懸命されている業務に対して何が言えるのかというのは、やはりちょっと戸惑いました。

では、サービスという観点はどうなのだろうとは思ったのですが、それを今、私が語るのは、障がい者の方が図書館がどうだったらいいいのかというのが余りにも私の中になさ過ぎて、そういった調査もしなくてはいけないなというか、障がい者の方が思っていることを集めたりしないといけなかったし、言ってしまうと、8月から11月までの短期でそれはとても難しいことだったので、次年度に向けてというのをやりたいとは思いましたけれども、そこが多分私自身も、障がい者の方に図書館はどんなだったらいいいのかなというのが見えていないこともあって、評価がしにくいというのももちろんあるとは思っています。

ただ、ここで書いてある、こういうことをやりましたという業務に対する評価というのは、必要な業務ばかりだったのだと思いますし、大切だとも思うのですが、やってくださっていたことは評価できますとは書けるのだけれども、それがこれといったものにつながっている感じがいないのと、障がい者の方が利用するに当たっての利便性だとか、図書館へ行こうかなという気持ちにつながっているのかはわからないので、済みません、同じことばかり言っていますけれども、戸惑いが多かったのは確かです。

○山口委員長　ありがとうございます。図書館評価というのは、図書館の活動の向上のためにというのが目標の1つにあるだろうと思うのですね。適正な運営、民主的な運営というのがユネスコ公共図書館宣言にもありますのでね。だけれども、これをもとにPDCAサイクルで回していくのだということは、図書館評価を導入した当初にそれが強く打ち出されていたのを私は記憶しているのですね。

だから、これをもとに次はよくなってくれないといけないと思うので、そういう点で言うと、事業で切るのがいいのか、それとも事業のサービスの対象者またはサービスそのもので切るのがいいのか、どちらの方が捉えやすいのか。図書館側として捉えやすさもあるけれども、相手側の捉えやすさもあると思うのですね。

その点で言うと、例えば今、障がい者サービスのところでご発言いただいた訳ですけれども、もう1ついっぱいあるのは、あちこちに飛んでいるのは学校へのサービスなのです。学校図書館支援、学校支援なのです。そこら辺のところ、1回目の評価を終えられて、大石委員はどんなご意見をお持ちになったのでしょうか。

○大石委員 初めて評価にかかわらせていただいて、何回かお話しさせていただいたかとは思いますが、評価は業務改善につながっていかなければ、全く評価のための評価であってはならないというのが何回か申し上げてきたことだと思うのですけれども、この評価を受けて図書館がどのように改善を図ったのかというのが、これだけだといまひとつ読み取れないというのが正直な感想です。

それはなぜかという、もうこれは2014年に特記すべき取り組みを書いてしまったので、その枠組みでいかにざるを得ないところなのかなということで、普通だったら成果と課題というような分け方をして、どういう成果があったのか、課題は何なのか、図書館の方は内部評価として、それをどういうふうに考えているのか、それに対して外部評価でこれこれこういうデータから、こういうふうなことが考えられるのではないですかねという提言が初めてできるのかなと。

ただ、事業内容を、その部署だったら、その事業は当然年間の行事として、取り組みとしてやるよねということを書かれても、例えばおはなし会を何回やったとか回数だけ書かれても評価のしようがない。そのときに、子どもの変容がどうだったのかとか、その辺は数値になかなかあらわれないことですが、利用人数が減ったといっても、雨が降ったとか、行事と重なってしまったとか、いろいろな要素があるので、そこまで細かく分析するということができないとなると、ある程度仕方がないところもあるのかなと思いつつ、やはり先

ほど山口委員長からありましたけれども、今後の図書館評価に向けて、この全体で話し合っているにもかかわらずなかなか明かれないところがあるので、図書館の代表の方と委員長、副委員長ぐらいで、もうそろそろその項目について見直したりとか、評価が実利的なものになっていくということをしていく必要があるのかと思います。

学校支援に関しては、市教委の方でいろいろ図書館の研究会とか、そういうものも立ち上げてやっているところではあるのですが、どちらかというと、学校司書を置かなければならないという法律の改正に基づいて、どう対応していくのかというところで、中央図書館からもご参加いただいたりもしているのですが、余りこちらの図書館評価とはリンクしていない形の意見が多いかなという感じがします。

ただ、そこら辺が研究会という形なので、また行政とはちょっと違う立場で私見をありのままにぶつけ合っている会になっていますので、またそこは分けて考えなければならぬとは思いますが、せっかくこれだけ図書館評価について、こんなに時間を割いてやっているものだというふうには私は思っていなかったもので、先ほど数人の感想があるという話を聞いて、もったいないなと。せっかくこういうものをつくっているのだったら、もうちょっと市民の方にわかる形で知らせられるといいなと思いました。感想ばかりで済みません。

○山口委員長　ありがとうございます。今の事業名で分けていくというのは、図書館サイドとしては把握しやすいのだけれども、外へ出すときに、それをどう捉えるかというのは非常に難しいと思うのです。例えば今、大石委員からお話があった学校と図書館関係で検討して連携を考えていこうというときに、図書館評価の中で例えば学校との関連性について評価、外部評価、事業や活動についての評価とやると、今度、その成果を学校側ではどうですか、学校図書館側ではどうですかといって意見を聞くことができますね。そういったサービス対象別に、さらにいろいろと意見を聴取する可能性というのが出てくると思うのですね。

ただ、漠然と冊子を見てくれた方の意見、それも大切です。だけれども、もっとピンポイントなサービスを図書館はやっている訳だから、それに対して意

見を求めるためには、もうちょっと出し方の工夫ですね。まとめ方の工夫は必要なのかなと思います。例えば29ページの利用普及、子ども向け普及、学校授業支援とある訳だけれども、子ども向け普及というのは決して学校の授業支援だけではないだろうし、また、その次のところにおはなしボランティアへの援助・育成で子ども向け普及とはなっているけれども、これはむしろボランティアということで、市民との協働という対象で見ることでもできる訳です。

また、33ページの利用普及でYA向け普及というところで、一日図書館員というのが出てくる訳ですね。でも、一日図書館員だけがYA普及ではない。これは当然その次にある連携協力ということの兼ね合いだとは思っているのですが、そういうところで枠組みを少し考え直していいのかなとも思うのです。

今、大石委員がおっしゃったように、確かに全体で議論すると結論が出ない可能性もありますし、また、図書館の中には図書館評価を担当される職員の方がいらっしゃいますね。だから、できればそういう方などを巻き込んで早目に検討を始めた方が、恐らく実際にそれに基づいて今度はデータをとっていかねばいけなくなるので、現場の職員の方がお忙しくなりますから、早目にそれがやっていけるといいかなと思います。

これについて、あと特に追加でご意見、その他があればお伺いしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

今いろいろな図書館で評価をやっているところは多いのですが、どこも試行錯誤しているというのが現状ですね。これが定番ですよというフォーマットがある訳ではないので、だから、逆に町田市の場合は試行錯誤を続けているので、その中で何のためにやっているかというところをもう1回見直してやった方がいいのではないかなと私は強く感じております。

○瀧委員 中身についてぜひ今の山口委員長がおっしゃったようなことで、何のためにやっているのかということを確認しながら、ぜひ項目等も確認していただきたいと思っていまして、それとあわせて統計の数字も、どんな統計の数字を出していくのかというのも、ちょっと大変でも突き合わせをもう1度していただけないかなと思っています。

今回やっていく中で、図書館評価の方で出していただいた数値と「町田の図書館」の統計も見比べながら、いろいろ確認してやっていたりしたのですけれ

ども、なかなかその辺がいただいた数値だけではわからないもの、読み取れないもののがかなり多くて、そこは非常に残念だなとは思ったのです。実際、これを見られていた方も、この数値だけで何か判断できるか、コメントとこれを見ながら何か読み取れるかという、私たちがこれだけやっても大変だということで、ぱっとこれを読まれた方が、ああ、そうか、うんうんと納得するかというのがちょっと不安なのです。その辺がちょっと疑問なのです。

なので、ここのところで出てくる数字が利用者の人にとってもわかる数値の出し方ができるかどうか、もちろん「町田の図書館」がありますので、統計はそちらというのものもあるかもしれませんし、統計の数字がサービスと本当に直結してわかる数値になっているかどうかというのも確認をお願いできないかなと思います。

今回も、数値をもう1度出せないかとお願いしたいのですけれども、統計としてとっていないので難しいというお答えがあったものもありました。業務上でとっている数値なので、出せないものですか、それから日々とっていないと最終的に機械的には出せないものもあると思うので、そこはもちろん図書館の方とも相談しながらだとは思っていますが、その数字がないと、ただ数字が出ていても意味をなさないものもあると思うのです。ぜひそこはご検討いただきたいと思います。

○山口委員長　ありがとうございます。論拠として数値を提示して、それで示していこうというのが評価のコンセプトというふうに前の館長はおっしゃっていたのですけれども、特に第1グループなどでやっていた実際に相当数値をいじらなければいけない利用登録や貸出などは、その数値が一体どういうふうに出てきているのか、そこまで実は我々は検証していたので、でも、やはり読めない。なので、何回も集まってやってもやはり読めない。では、どうしようかと聞いてみると、ちょっとわからないものもあったりというのは確かにありました。

だから、そこら辺も、事前にどこまで考えるのがいいのか。そもそもそれで何がわかるのかということですね。そんなところをちゃんと示していかないといけないのかなとは思っているのです。

○鈴木委員　前の評価の仕方からこれになったときには、協議会のメンバーと

図書館とで突き合わせたのですか。私はちょうど切りかわる最後の年に入って、評価は1年だけ古いものでしたのですけれども、来年度からは変わりますという話で、どういう過程で変わったかを知らないのです。

○山口委員長 そのときは、変わりますよというので、意見を聴取する場はあったけれども、結局は枠組みが先に示されたということでしたかね。ちょうど館長さんも入れかわった時期だったので、前の評価のときは、終わった後に図書館側の評価に対して、こういうコメントを書いて、AとかBとかCなどやっていたから、それについてまた各部署の方で、もしくは各部署からの意見を、図書館評価を取りまとめる担当の方が協議会に出席されて、実際に意見のやりとりをするというときもありました。それがなかったときもあります。だから、いろいろだと思うのですね。

私は、終わった後に1回担当者とやりとりしないといけないかなとは思っているのですが、文字だけで伝えられないところをちゃんと伝えないとわかりにくいと思うし、コメントを読んで多分不本意に感じている人もいると思うのですね。だから、そこはこういう意味ですよと、お互いにコミュニケーションをとる機会が欲しいと思います。町田市の場合、定例会もありますけれども、実際に外部評価に我々は定例会以外の時間を割いていますので、その点は図書館側も、その業務の時間があるとは思っただけけれども、もし可能であれば、そういうものを折り込んでおいた方が本当の意味での業務の改善につながってくる、よりよい図書館につながってくるのではないかと思います。

そこら辺について、館長、いかがですか。この枠組みは今のまま続くとしても、終わった後のやりとりとか、そういうものはいかがでしょうか。

○近藤館長 枠組みは、先ほど言ったように、2018年度まで続けるということと、先ほど来年の春ぐらいから次の評価に向けて何かできればいいかなと思っていますけれども、その辺をちょっと早めるかどうかはまた担当と話をします。

今の評価が終わった後の情報のやりとりですけれども、それについてはどういうやり方がいいのか。要するに、評価の担当は各部門から上がってきたものをまとめているので、一定わかっているとは思っているのです。そのレベルでのやりとりでいいのか、本当の担当となると、なかなかお時間をとるのが難しいと

なると、わからないのですけれども、あくまでも私が今思っただけなので、今回は特にこのところがポイントというところを絞らせていただいて、全体は例えば評価の担当者でやるとして、この絞ったところは直接の担当との話などができる機会を設けるとか、そういうやり方とかを工夫できるかどうかということだと思いました。

○山口委員長 ありがとうございます。それは定例会の場でなくてもいいと思うし、むしろお互いにフリートークで話していることで理解を深めるという形でもいいと思うのですね。ただ、活字になったものだけで終わったとなると、ちょっと言葉は悪いけれども、評価のための評価、アリバイづくりになってしまって、それはお互いにとって非常にもったいないと思います。ぜひそれは生かしていただきたい。

もう1つは、さっき言ったように、このサービスについてはこんな感じですよというのをまとめられれば、これを今度はサービスを受けている側へ、市民全体とすればなかなか難しくても、学校関係だったら学校サイドだとか、障がい者関係だったら障がい者サービスの方でどうでしょうかというのでやりとりもできると思うのですね。ですから、そのように考えていけるといいのかなと思います。

このところ、協議事項が毎回図書館評価についてと上がってくるのですけれども、一応ここで冊子が出ましたので、とりあえず一旦協議事項としては終わりにしておいて、例えば今後の改定のタイミングに合わせてどんなふうに変えていくかというのは、委員の中でまた意見交換しながら、それをもとに私なりに何人かの委員と図書館の担当者の方とで実務的に意見交換できるような感じにしていきたいと思いますので、また意見がございましたら私の方にお寄せいただきたいと思います。

そういうことですので、まだ当分の間この形でいきますので、よろしく願いいたします。

あと、その他ということで、今日配付されている資料ですが、前回のときに町田の生涯学習の実態調査の中で自由記載の意見というのがあったということなので、それについて出していきたいというお願いをしていたものがこちらのプリントになっております。かなり内容はいっぱいあるので、これを今こ

ここで精査するということはできませんが、ざっと見ると、なかなか統計値では出ない意見がいろいろ出ていて、しかも、この調査のいいところは、着目すべきところは、図書館に来ている図書館の利用者だけではないのです。図書館を使っていない、または図書館サービスを知りませんという方も含まれて書かれているということです。

ですので、いろいろな立場からいろいろな意見が出ております。その点、これをどう生かしていくかということなのかと思いますが、例えば問29の意見ということでかなりいっぱいあるのですけれども、これについて、例えば図書館側としてはどんな感じでこれを受けとめて、また生かされていくのか、そこら辺は何かお考えのところがあればお聞かせいただきたいのです。館長、いかがでしょうか。

○近藤館長 これをどう受けとめてということはまだあれですけれども、ざっと読んだところでは、実は読んだのは大分前なのです。生涯学習全体の市民意識調査なのでいろいろなことが書いてありますけれども、図書館に絞って言えば、今の図書館を続けてもらいたいという声、さらにそれぞれ観点は多少違いますけれども、こんなふうにしてもらったらより使いやすくなるとか、充実できるのではないかなというような意見が多くあったのかなと。

あと、改善したい、こうなれば便利ということで、駐車場のお話とか老朽化した施設のお話とかがありましたけれども、その辺はなかなか解決が難しいのです。イメージとしては、今回この意識調査で書いていただいた意見というのは、図書館を肯定的に捉えている方のご意見が多かった、必要であるというふうに捉えている方のご意見が多かったというふうには全体的には感じました。

○山口委員長 これは確かに生涯学習全体を見ているので、例えば文学館についてとか、さらにはスポーツ関係とか、そういう部分で個別の意見が並ぶ訳ですけれども、確かに今、館長が言われたように、図書館に関しては肯定する意見、今のサービスをさらにもっと拡充してほしいというような意見が多いのかなとは思います。

これは図書館の方でも、または協議会でも述べる訳ですが、例えば生涯学習審議会などでも、この情報というのは提供されているのでしょうか。

○近藤館長 生涯学習審議会には、概略というか、数字として、この設問はこ

ういう答えでしたというのは出したと思いますけれども、この内容については出していないのです。

○山口委員長　ちなみに、この自由記載というのは、何かほかの媒体、例えばホームページその他に出てはいないのですか。

○中嶋副館長　こちらにつきましては、冊子とかホームページでは一切掲載はしていない状態で、今回皆さんから見たいというお話があったということで、あちらの事務局に確認して、それはどうぞ協議会では見ることは構わないので、データをもらって刷らせていただいたという状態です。

○鈴木委員　探したのですけれども、やはりなかったです。

○山口委員長　生の声ですから、こういうものは一番実は聞きたい、知りたいところで、図書館協議会にしろ、各種市民の立場でかかわる審議会とか協議会とか、要するに利用者、市民の代表という立場から、こういう意見を集約して議論していくというのはまず基本だと思うのです。これはすごく貴重な情報だと思います。ぜひデータも含めて、お互いに生かしていきたいと思います。

池野委員は社会教育委員をされていますけれども、こちらのデータはまだご覧になっていないのですか。今日初めてですか。

○池野委員　そうですね。初めてです。なかなかおもしろいと思います。かなり個別の意見も多いとは思いますが、それ以外にぱっと見でもすごくおもしろいデータだなと思いますので。

○山口委員長　準備されている資料は以上ですが、あと1点、情報提供で私の方からですが、1枚物のプリントで、これはさきに瀧委員からもご連絡をいただいていたのですけれども、茨城県の守谷市での図書館の運営、図書館流通センターの指定管理者が行われていたところなのですが、実はいろいろ課題、問題が出まして直営に戻すという動きが出てきました。これは新聞報道の記事をそのまま全文を載せております。具体的な数値や経緯なども出ていますので、ああ、こんなことが関東地方でも起きているのかということで紹介をした次第でございます。

特に一番下のところに、根本彰先生がコメントをつけていらして、例えば図書館というのは地域の知識や文化の水準を高める役割があって、直営に戻すというのは責任を持って役割を全うするためと考えられ、賛成できる。指定管理

は3年から5年と短い、短期では集まらない郷土資料を集めたり、10年、20年後を見据えて蔵書を選んだりするのは直営の方が適していると思うというご意見、私もそのとおりだと思います。強いて言えば、10年、20年どころか100年後を見据えないと、地域の文化が廃れてしまいますので、そういう視点を考えたときに、どういう形がいいのかということはぜひお考えいただければと思います。

あと、その他で何かこの場でご意見とかご発言、また情報提供がございましたら、委員さんの方からお願いしたいのですが。

○鈴木委員 5月8日に公共施設再編計画策定検討委員会がありまして、そのときに市民説明会、それから意見募集の結果速報というのが配付されたのです。施設機能による分類の中では、図書館が20件でトップ、その次が美術館・博物館などの14件で、あとは1桁のところだったのです。ですから、これは意見書ですから、関心を持つ人が出している、さっきのアンケートとは全然違いますけれども、図書館のことが一番皆さんの気になるところで意見がいっぱい集まって、そのほか、意見の内容による分類というところでは、それが二十幾つに分かれているのです。

一番多かったのが施設に関する具体的提案というので、今のものです。その次がコストのかけ方について、もっと見直すべき点、職員の人件費とか無駄、バランスのとり方があるのではないかな。一部のものに過剰に投資している（陸上競技場、スポーツ）、それが12件で2番目に多かったのです。

具体的施設に対して、全体としてのバランスが悪かったという報告が配付されて、これはホームページにも載っていると思うので、ここでお話ししておきたいのですけれども、件数は全体として、意見をいただいた人は48名で、意見内容別の件数として125件だったそうです。さっきの鶴川でもそうですけれども、いろいろなところでいろいろな市民の意見が出ているものをしっかり市側は受けとってほしいなと思いました。

○山口委員長 ありがとうございます。ホームページに載っているということです、ぜひご覧いただいて、やはり図書館が多いというのは、それだけ使われているという去年の生涯学習に関する調査と一致してきますね。今日のワークショップの話でも、地域に根差している施設といったときに、公共図書館

が結局生涯学習では一番多いのですね。公民館は1館しかありませんし、ですので、そこら辺、やはりもうちょっと考えていかないといけないとは思いますがね。

そのほかに何かご意見、情報等はよろしいでしょうか。

では、そろそろ時間になりますので、本日の定例会は以上ということで終わりにしたいと思います。ご苦労さまでした。

—了—